

熊野遺跡 VIII

2007

深谷市教育委員会

熊野遺跡 VIII

2007

深谷市教育委員会

序

平成18年1月1日に新たに誕生した深谷市は、埼玉県北部に位置し、市域の南は比企丘陵と接し、北端は群馬県と接しています。この広大な市域の間を利根川・荒川という国内でも有数な大河川が貫流しています。

こうした豊かな自然環境のもと、古代人の暮らした足跡が埋蔵文化財として今なお多く眠っています。なかでも、縄文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡をはじめとして、弥生土器で有名な上敷免遺跡、県指定史跡の鹿島古墳群、榛沢郡家正倉跡と想定される「中宿古代倉庫群跡」や国指定重要文化財「縁袖手付瓶」を検出した西浦北遺跡など、重要な遺跡が多数存在します。

今回報告する熊野遺跡は、JR高崎線岡部駅や国道17号線に近いことに加え、平成元年に開始された岡中央土地区画整理事業などにより各種開発が進み、これらに伴う発掘調査が多数実施されてきました。その結果、7間×3間をはじめとする大規模建物群や堅穴住居跡などとともに、道路状構造・逆房式鍛冶工房・石組井戸など特殊な遺構も検出されました。さらに、役人が使用したと考えられる帶金具や円面鏡なども数多く出土しており、熊野遺跡は役所的機能を有していたことが想定されています。

本報告書は、アパート建設に先立ち平成18年に実施した162次調査の成果をまとめたものです。住居跡や構跡などが検出され、熊野遺跡の性格を考える上で資料を追加することができました。本書が学術・教育関係はもとより、文化財の保護・保存の啓蒙・普及を図る資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成まで、多大なるご理解とご協力を賜りました関係各位・諸機関に心より御礼申し上げます。

平成19年3月

深谷市教育委員会
教育長 猪野幸男

例 言

1. 本書は、埼玉県深谷市岡に所在する熊野遺跡の、平成18年度に実施した162次発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 文化財保護法第93条第1項に基づく事業者あての指示通知は、次の通りである。
平成18年3月31日付け教文第3-1132号
3. 文化財保護法第99条に基づく発掘調査の通知は、次の通りである。
平成18年4月7日付 教文第2-11号
4. 発掘調査は宮本直樹と竹野谷俊夫が担当し、平成18年4月11日から平成18年4月26日にかけて実施した。
5. 出土品の整理及び実測・観察表の作成は竹野谷俊夫が行い、図版作成は、宮本直樹と竹野谷俊夫が行った。
6. 本書の執筆は、宮本直樹が行った。
7. 本書に掲載した資料は、深谷市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 発掘調査位置図は岡部町都市計画図（1/2,500及び1/10,000）を、遺跡分布図は国土地理院発行『本庄』（1/25,000）を使用した。
2. 遺構実測図は、現場では基本的に1/20、カマド実測図を1/10とし、本書掲載の段階で1/60及び1/30とした。遺物については、基本的に1/3で掲載した。
3. 図中の方位は、座標北を示す。
4. 遺物観察表の数値に（ ）のあるものは推定値、《 》のあるものは残存値を示す。
5. 土層断面図及びエレベーション図のスクリーントーン（斜線）は、地山を示す。また、図中の数値は、標高値を示す。

目 次

序

例言・凡例

目次

I	発掘調査の経緯及び経過.....	1
1.	発掘調査の経緯.....	1
2.	発掘調査・整理報告の経過.....	1
3.	発掘調査・整理・報告書刊行の組織.....	1
II	遺跡の地理・歴史的環境.....	3
1.	地理的環境.....	3
2.	歴史的環境.....	3
III	発見された遺構と遺物.....	5
1.	熊野遺跡の概要.....	5
2.	発見された遺構と遺物.....	5
3.	まとめ.....	5

挿図目次

第1図	熊野遺跡の範囲と調査地点.....	2	第9図	1号住居跡出土遺物実測図(2).....	10
第2図	熊野遺跡162次調査位置図.....	2	第10図	1号住居跡出土遺物実測図(3).....	11
第3図	周辺の遺跡分布.....	4	第11図	1号住居跡出土遺物実測図(4).....	12
第4図	熊野遺跡162次調査全測図.....	6	第12図	1号住居跡出土遺物実測図(5).....	13
第5図	1号住居跡実測図.....	7	第13図	1号住居跡出土遺物実測図(6).....	14
第6図	1号住居跡カマド実測図.....	7	第14図	熊野遺跡162次調査区周辺遺構図.....	18
第7図	1号住居跡遺物出土状況図.....	8		写真図版1 162次調査検出遺構・遺物(1)	
第8図	1号住居跡出土遺物実測図(1).....	9		2 162次調査出土遺物(2)	

I 発掘調査の経緯及び経過

1. 発掘調査の経緯

埼玉県北部に位置する深谷市は、埋蔵文化財の宝庫として古くから知られてきた。なかでも、調文時代草創期の土器を出土した西谷遺跡や、弥生式土器で知られる上敷免遺跡、縁袖手付瓶を出土した西浦北遺跡など、著名な遺跡が多い。

熊野遺跡は、深谷市の北西に位置する。JR岡部駅のすぐ北西にあたり、県道蛭川善済寺線と国道17号線に挟まれた範囲である。平成元年に『岡中央土地区画整理事業』が立ち上がり、事業が進展するに伴い景観が激変しつつある。

今回報告する発掘調査は、アパート建設に先立ち、平成18年に実施したものである。

まず、平成18年3月6日に、岡塗一氏（以下、「事業主」と記す）から、埋蔵文化財の所在についての照会が深谷市教育委員会（以下「市教委」と記す）にあった。市教委では、開発予定地が熊野遺跡の範囲内であり、遺構の有無を確認するための試掘調査が必要である旨を回答した。3月10日に、試掘調査依頼書が事業主から提出されたので、3月17日に試掘調査を実施した。調査の結果、堅穴住居跡一軒を検出した。

これを踏まえ、市教委と事業主で協議を重ねた結果、工事の変更是不可能であり、記録保存のための発掘調査を市教委が実施することに決定した。文化財保護法93条の第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出が、3月30日に事業主から埼玉県教育委員会教育長宛に提出された。

これを受けた市教委では、文化財保護法99条に基づく埋蔵文化財発掘調査の通知を、平成18年4月7日付けで埼玉県教育委員会教育長へ提出した。

2. 発掘調査・整理報告の経緯

(1) 発掘調査の地番

調査地点の地番は、深谷市岡字内出2855-4番地他である。岡中央土地区画整理事業では、24街区8画地の一部と9画地である。

熊野遺跡は、過去に多数の調査が実施されてきた。今回報告分は、平成4年度以降実施した調査のうち162次調査と命名したものである。

(2) 表土除去

発掘調査は、4月11日から着手した。作業は、

まずバックホーによる表土除去から始めた。

表土から30~50cm掘り下げるところ黄褐色ローム面が表れたので、これを遺構確認面とした。

(3) 遺構確認

表土除去に続き、遺構確認作業を実施した。堅穴住居跡1軒を確認し、写真撮影を行った。

(4) 遺構掘り下げ及び図化作業

住居跡の掘り下げは、まずベルトを設定し、床面を検出した段階で断面観察を実施し、図化した。

その後ベルトを取り外し、遺物の出土状況の写真撮影を行い、図化した。遺物の取り上げ後、柱穴、壁溝などの掘り下げを実施した。さらに、カマドの調査が終了した時点で、完掘状況の写真撮影を実施し、その後に全測図を作成した。

調査の全工程が終了し、機材等を撤収したのは4月26日である。

(5) 整理・報告

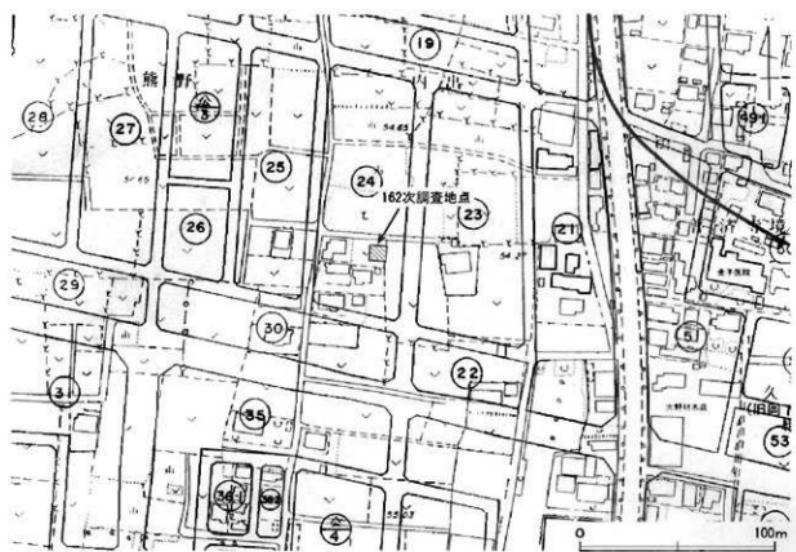
発掘調査で出土した遺物の水洗・接合は、5月より開始した。これと並行して、図面の整理作業を行った。遺物の実測は6月からを行い、併せて図版の作成を行った。8月以降原稿を執筆し、入稿したのは19年1月のことであった。

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

深谷市教育委員会	教育長	猪野幸男
	教育次長	古川国康
	次長	中村信雄
間岡部教育事務所	所長	柳田一郎
	課長補佐	鈴木八十子
	主任	金井登美子
	"	根岸宏
	"	鳥羽政之
	"	森田富雄
	"	宮本直樹
	臨時職員	竹野谷俊夫
	"	黒澤恵
	"	佐藤由江
	"	布施みゆき



第1図 熊野遺跡の範囲と調査地点



第2図 熊野遺跡162次調査位置図

II 遺跡の地理・歴史的環境

1. 地理的環境

深谷市は、埼玉県の北部に位置し、市内をJR高崎線、関越自動車道などが通る。

熊野遺跡は、深谷市岡字熊野他に所在する。JR高崎線岡部駅の北西に位置し、東西1,300m、南北1,000mの範囲に及ぶ、近年は市街化が進んでいる。

遺跡は、櫛挽台地の北部に立地する。南部には標高116mの山崎山とこれに連なる諏訪山が存在する。遺跡の中心から600m北は崖線となり、比高差20mをもって妻沼低地へ移行する。また、櫛挽台地の西は藤沢川により区分され、本庄台地と接している。

2. 歴史的環境

熊野遺跡の立地する櫛挽台地北部は、早くから開発が進み、これらに伴う発掘調査の結果、縄文時代～中世に至る様々な遺構・遺物が検出されている。

縄文時代では、西谷遺跡から押印縄文・爪形文土器などが検出され、草創期の土器として注目されてきた。遺構では、四十坂遺跡で前期の堅穴住居跡が、水庭遺跡や菅原遺跡から中期の住居跡が、上宿遺跡で後期の敷石住居跡が検出されている。

弥生時代では、四十坂遺跡より縄文晩期～弥生初期の土器群が出土し、弥生初期のまとまった資料として早くから注目されてきた。その後、平成2年年の発掘調査では、再葬墓や土壤墓群が検出された。

古墳時代に至ると、遺跡数は急増し、重要な遺構も多数確認されている。

四十坂遺跡からは、五個～和束期に至る方形周溝墓群が検出され、この段階から後期群集墳まで連続した埋葬が営まれていたことが知られる。中でも四十塚古墳は、横矧板鉢留短甲・五鈴鏡板付轡などを出土し、これらの遺物から5世紀後半の当地域の首長墓と捉えられている。

その後、6世紀代には、やはり首長墓と想定される寅稻荷塚古墳（前方後円墳）が四十塚古墳群内に出現する。これ以降、首長墓は、お手長山古墳（帆立貝式古墳）・内出八幡塚古墳（円墳）・愛宕山古墳（方墳）と順次南東方向へ移動しながら単独で築造されたことが認められる。

この他に、熊野遺跡の東に接する白山古墳群では、6世紀代の古墳跡24基（円墳23、帆立貝式古墳1）が調査された。郭壇輪輪や壇を持つ巫女の埴輪など6体の人物埴輪が、ほぼ完全な形で出土した。

なお、櫛挽台地北部における古墳時代の集落は、現在のところ中宿遺跡や上宿遺跡など数か所が確認されているに過ぎない。この時代の集落は、妻沼低地に立地する砂田前遺跡・岡部条里遺跡や本庄台地上の六反田遺跡・大寄遺跡・宮西遺跡などがあり、櫛挽台地以外に分布の中心が認められる。

奈良～平安時代になると、様相は一変する。それまで墓域として利用されてきた熊野遺跡内に、突如集落が営まれる。これまでに162次に及ぶ調査が実施され、700軒を超える堅穴住居跡、150棟の掘立柱建物跡をはじめ、道路状遺構・大構・石組戸井・連房式鍛冶工房など特殊な遺構が多数検出された。また、円面鏡・帶金具・唐三彩の陶枕・刻字紡錘車・陶製仏殿・置きカマドなど他の集落では見られない貴重な遺物も多数出土している。

なお、集落の開始時期は、181次調査1・2号堅穴住居跡から出土した畿内土器の年代観から、7世紀第3四半期と考えられている。さらに、1次調査において検出された7間×3間をはじめとする大型建物の存在から、該期の熊野遺跡は初期評家と想定されている。

また、櫛挽台地縁辺部に位置する中宿遺跡からは、大規模な矩柱式建物跡20棟が規則的に配置された状態で検出された。藤沢郡家に伴う正倉跡と推定され、7世紀後半の成立であることから應野遺跡との関連が想定される。これと前後して台地直下には「滝下大構」が掘削された。その北側には条里遺構が検出されたことから、灌漑と運河の機能を併せ持っていたことが考えられる。

さらに、熊野遺跡の北東に位置する岡遺跡では、8世紀第2四半期と考えられる蓮華文軒丸瓦などの瓦が多量に出土する範囲があり、廐寺跡と推測されてきた。平成13年度に町教委が実施した確認調査により、版築された基壇状遺構が検出された。近接する住居跡から「縁」の刻字瓦や「寺」と墨書きされた土器器皿も出土し、寺院跡であることが立証された。

このように、奈良～平安時代の櫛挽台地北部は、中宿遺跡・熊野遺跡を中心として、その周辺に集落や寺院が展開していた状況が窺われる。

古代から中世にかけては、まず岡部六弥太館跡があげられる。方形に廻る堀跡や井戸、土壙墓などが検出された。同様な堀跡は、熊野遺跡と白山遺跡からも検出され、館跡に付属するものと推定されている。西龍ヶ谷遺跡では、軸を揃えて並んだ6棟の掘立柱建物群が確認された。



- | | | | |
|------------|----------------------|--------------|---------------|
| 1. 鹿野遺跡 | (律令期集落・官衙・中世居館) | 18. 東光寺裏遺跡 | (绳文・平安集落) |
| 2. 中宿遺跡 | (郡衙正倉・律令期集落) | 19. 陵前六郎成清館跡 | (中世) |
| 3. 滝下遺跡 | (河川跡・律令期集落) | 20. 石薙遺跡 | (古墳～平安集落・周溝群) |
| 4. 岡庭寺 | (寺院跡・古墳～律令期集落) | 21. 地神祇遺跡 | (古墳～平安集落) |
| 5. 同上 | | 22. 千光寺遺跡 | (古墳群・平安集落) |
| 6. 砂田前・施詰跡 | (古墳～平安集落) | 23. 西谷遺跡 | (绳文) |
| 7. 白山遺跡 | (古墳群・律令期集落・中世居館) | 24. 茅白山遺跡 | (古墳群) |
| 8. 新田遺跡 | (律令期集落) | 25. 伝上杉館跡 | (中世) |
| 9. 上宿遺跡 | (绳文・古墳～律令期集落) | 26. 山河盟天社 | (中世) |
| 10. 四十坂遺跡 | (古墳集落・弥生再興墓・周溝墓・古墳群) | 27. 西龍ヶ谷遺跡 | (律令期集落・中世居館) |
| 11. 原ケ谷戸遺跡 | (绳文・古墳集落・古墳群) | 28. 伝同上部赤太館跡 | (中世) |
| 12. 水産遺跡 | (绳文・古墳集落・周溝墓・古墳群) | A. 四十坂渡間山古墳 | (円墳) |
| 13. 新井遺跡 | (律令期集落) | B. 宮福荷塚古墳 | (前方後円墳) |
| 14. 東五十子遺跡 | (古墳・中世集落) | C. お手長山古墳 | (帆立貝式古墳) |
| 15. 大反田遺跡 | (古墳・中世集落) | D. 前原愛宕山古墳 | (方墳) |
| 16. 大寄遺跡 | (绳文・弥生～律令期集落) | E. 内出八幡冢古墳 | (円墳) |
| 17. 西浦北遺跡 | (绳文・古墳～律令期集落) | F. 四工塚古墳群 | (古墳群) |

第3図 周辺の遺跡分布

III 発見された遺構と遺物

1. 熊野遺跡の概要

熊野遺跡は、櫛挽台地北端部に展開する集落跡である。遺跡の標高は55m前後であり、南西から北東に向かって緩やかな傾斜を有している。遺跡から北東へ約600mで台地縁辺部に達し、眼下には利根川及び小山川により開拓された妻沼低地が開けている。沖積地との比高差は、約18m程度である。遺跡は、南北約1,000m、東西約1,300mを測り、当地域最大の規模を誇る。

熊野遺跡は、主として奈良・平安時代～中世にかけて営まれた複合遺跡である。それ以前の櫛挽台地北部は、古墳群が造営される墓域であった。熊野遺跡内にも、終末期の帆立貝式古墳であるお手長山古墳と、これに続くと考えられる内八幡塚古墳（円墳）が築造された。その後7世紀中葉から後半にかけて、遺跡が形成されたことが、これまでの発掘調査により明らかとなっている。

発掘調査は、まず岡部西小学校建設に先立ち、昭和52年～54年に実施されたのが始まりである。3次にわたる調査の結果、奈良～平安時代を中心とした堅穴住居跡83軒、掘立柱建物跡2棟が検出された。遺物では、帶金具や円面鏡などの出土が注目される。

また、平成4年度から始まった岡中央土地区画整理事業に伴う発掘調査は、現在までに162次にわたり実施されている。調査の結果、堅穴住居跡700軒、掘立柱建物跡150棟あまりが検出された。このほか、7間×3間の大型建物や、大規模な石組井戸跡、連房式鍛冶工房、大溝等が特筆される。出土遺物では、多量の土器類のほかに、帶金具・円面鏡・唐三彩・和同開寶・刻字紹録等などが特筆される。さらに、鉄製品では鎌・鋤先・斧などの農耕具や刀子などが多いが、鉄鎌や小札などの武器・武具の出土も注目される。

さらに並行して実施された(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団の4次の調査により、堅穴住居跡201軒、掘立柱建物跡110軒、道路状遺構、井戸跡4基などが検出されている。遺物では、陶棺や置きカマドなども出土している。

遺跡が形成されたのは、131次調査1号・2号住居跡から出土した畿内土師器の年代観から、7世紀第3四半期と推定される。その後、10世紀代まで集落が営まれていたことが判明している。

2. 発見された遺構と遺物

今回報告する発掘調査地点は、深谷市岡字内出2855番地他（岡中央土地区画整理地内24街区8画地の一部と9画地）である。平成4年度以降に実施された熊野遺跡内の発掘調査では、162次調査にあたる。

調査により検出された遺構は、奈良時代の堅穴住居跡1軒とピット1基である。

1号堅穴住居跡

平面形態は正方形を呈し、長軸4.51m、短軸4.45mを測る。主軸方位は、N=80°-Wを示す。壁は垂直に掘り込まれ、床面は平坦である。確認面からの深さは、36cm前後を測る。

ピットは5基が検出された。平面形態はいずれも円形で、直径18～25cm、床面からの深さは55cm前後を測る。このうちの各コーナー寄りの4基が、主柱穴と考えられる。

堅溝はカマドを除き全周した。幅は11～20cm、床面からの深さは5cmを測る。

カマドは、北壁を削り出して構築されていた。袖は粘土の造り付けで、右袖で65cm、左袖で59cmを測る。

燃焼部は、長さ115cm、最大幅55cmを測る。底面は平坦で、煙道に向かい緩やかに立ち上がる。

出土遺物は、土師器の壺・甕・瓶、須恵器の蓋・壺・長頸瓶、土製支脚、砥石、磨り石などが出土した。ただし、大半が覆土中層～上層にかけて出土しており、住居廃絶後に投棄された状況が想定される。時期は7世紀第4四半期と考えられる。

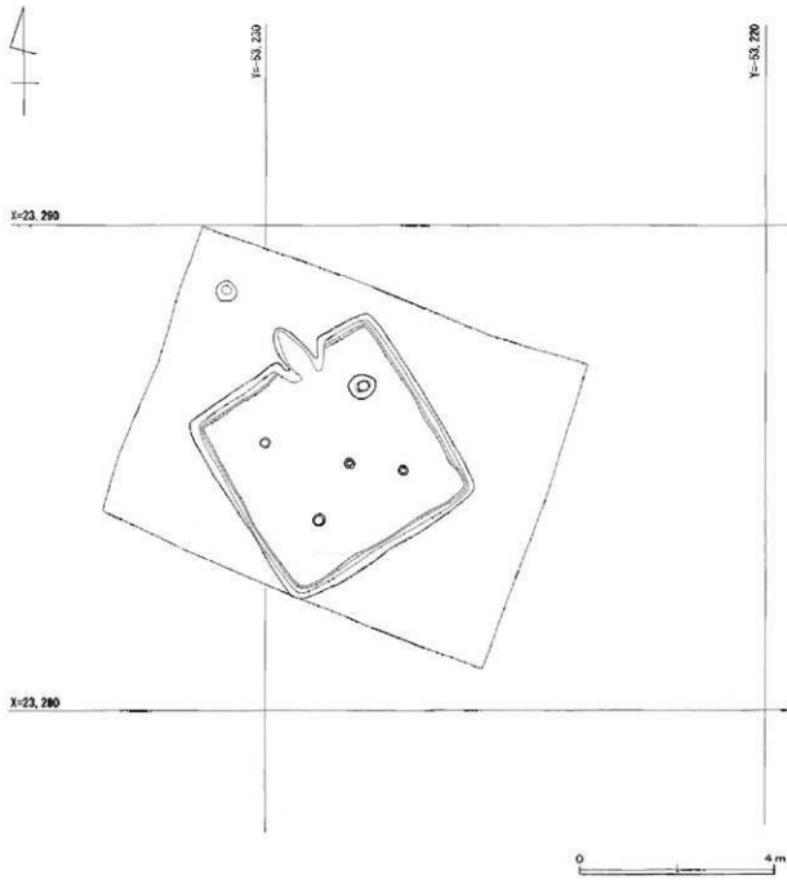
ピット

1号住居跡のカマド先端から北方1mの箇所にピット1基が検出された。

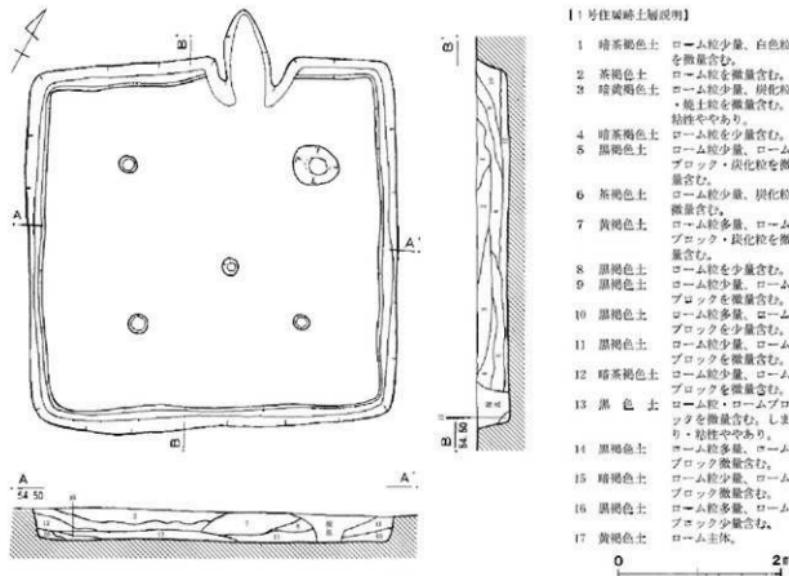
平面形態は円形を呈し、直径43cm、確認面からの深さは23cmを測る。

3.まとめ

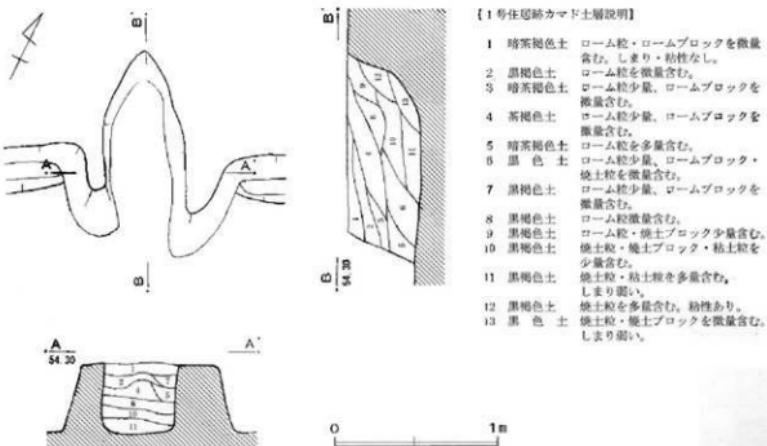
本調査地点は、櫛沢評家と想定される大型建物群の北西に近接する。本住居跡は、これらと軸を同じくし、本調査区以西には遺構が存在しないエリアが存在することから、遺構群の北端を示すものであろう。



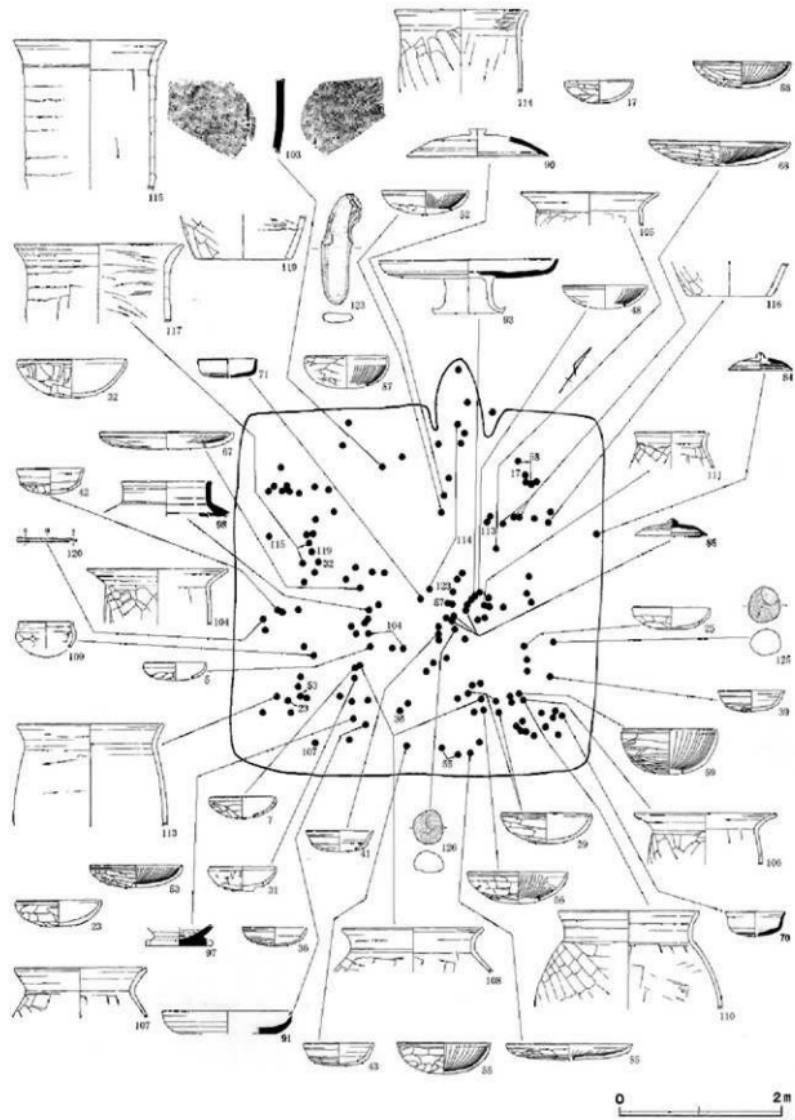
第4図 猿野遺跡162次調査全測図



第5図 1号住居跡実測図

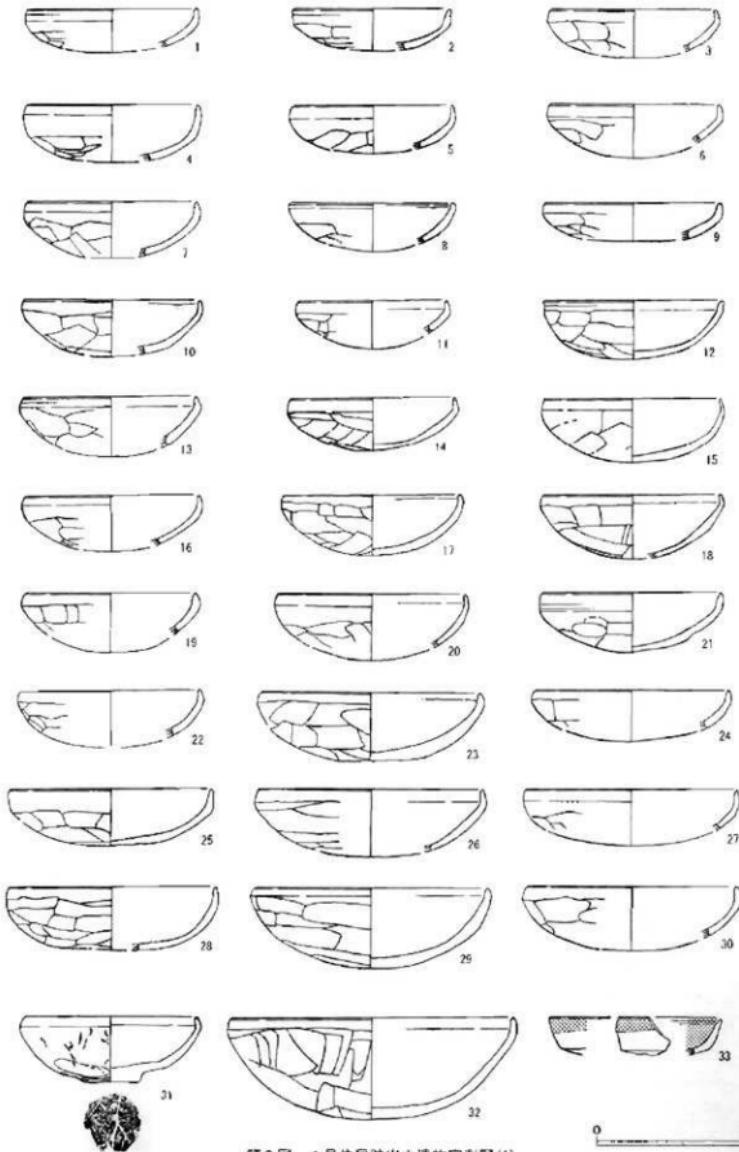


第6図 1号住居跡カマド実測図

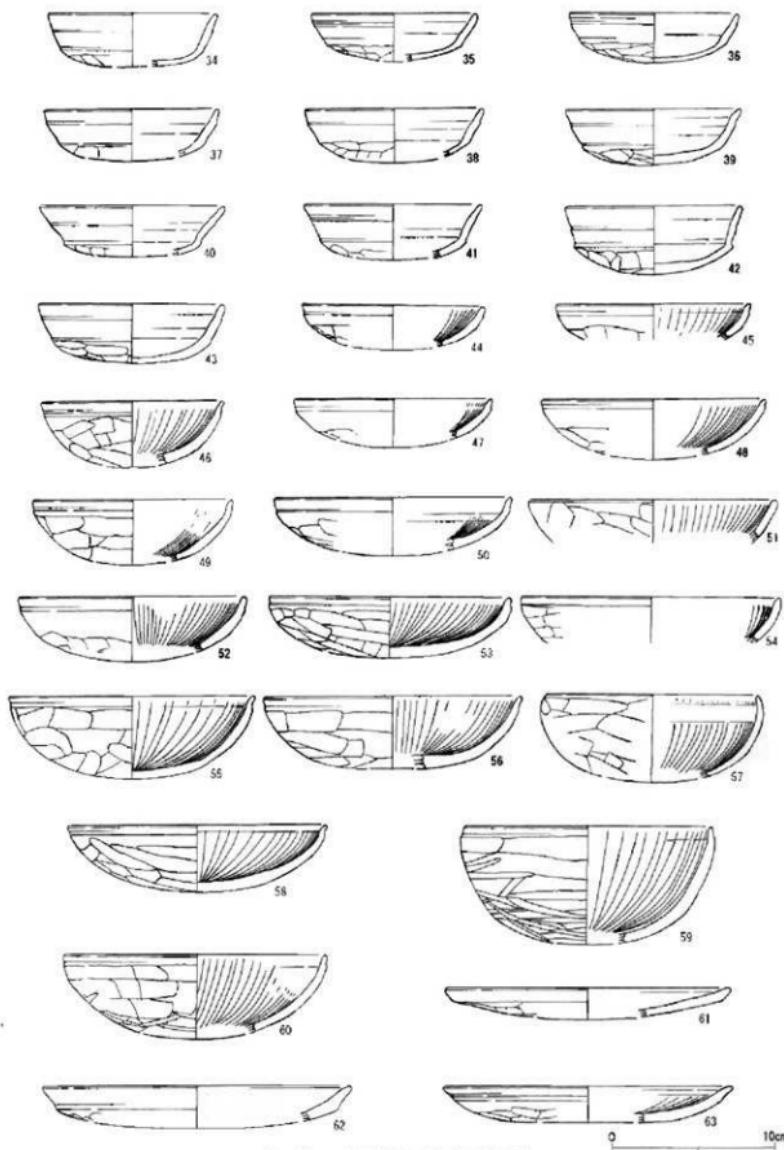


第7図 1号住居跡遺物出土状況図

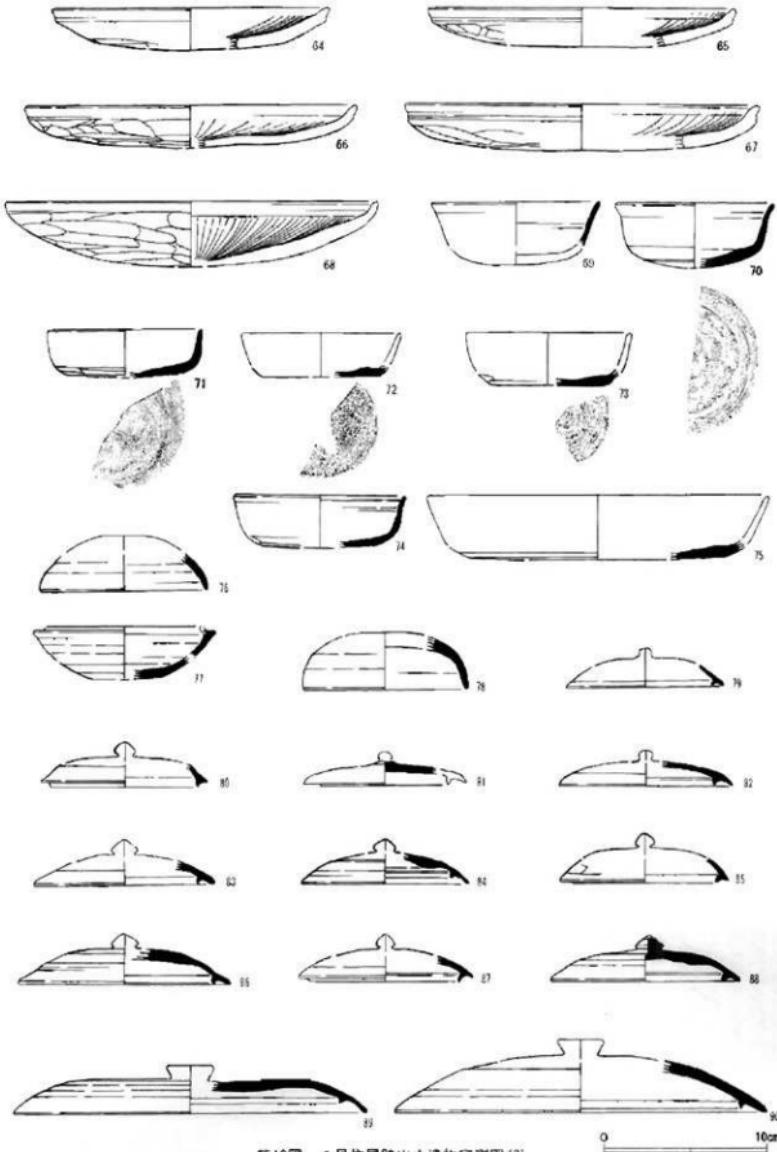
(遺構 1/80、遺物は 1/8)



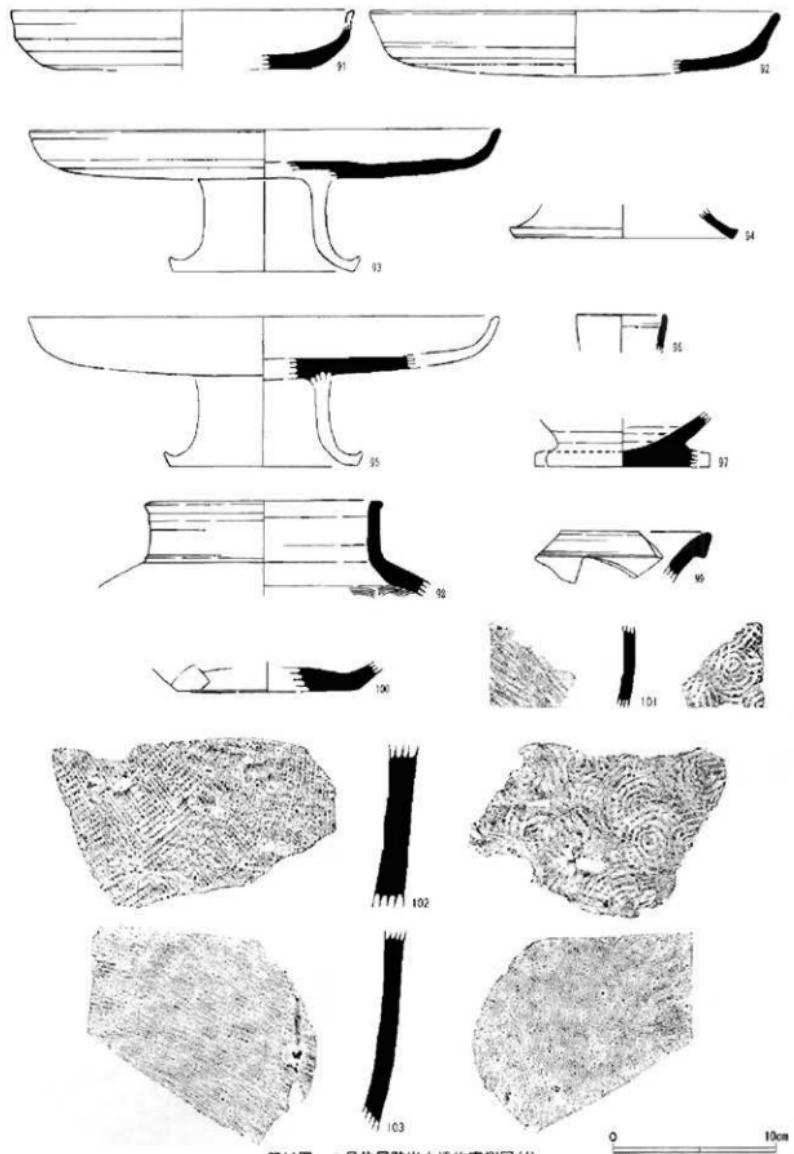
第8図 1号住居跡出土遺物実測図(1)



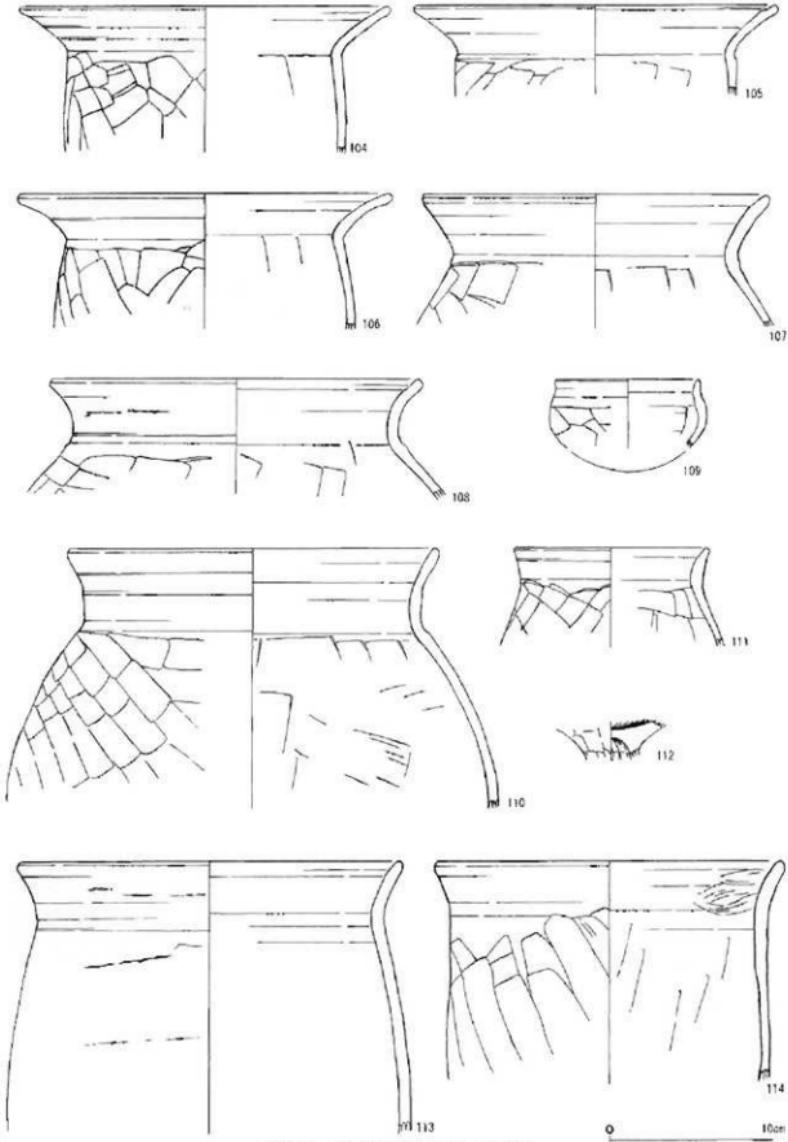
第9図 1号住居跡出土遺物実測図(2)



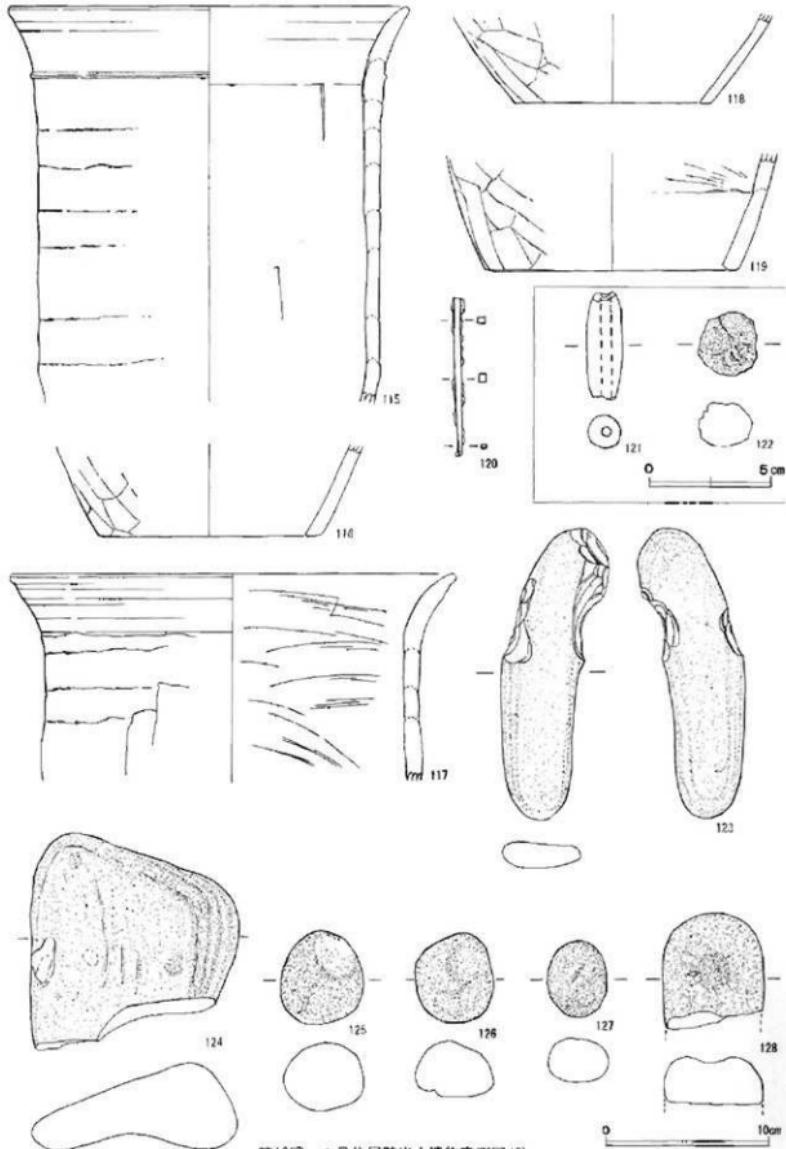
第10圖 1号住居跡出土遺物実測図(3)



第11図 1号住居跡出土遺物実測図(4)



第12図 1号住居跡出土遺物実測図(5)



第13圖 1号住居跡出土遺物実測図(6)

1号住居跡出土遺物観察表(1)

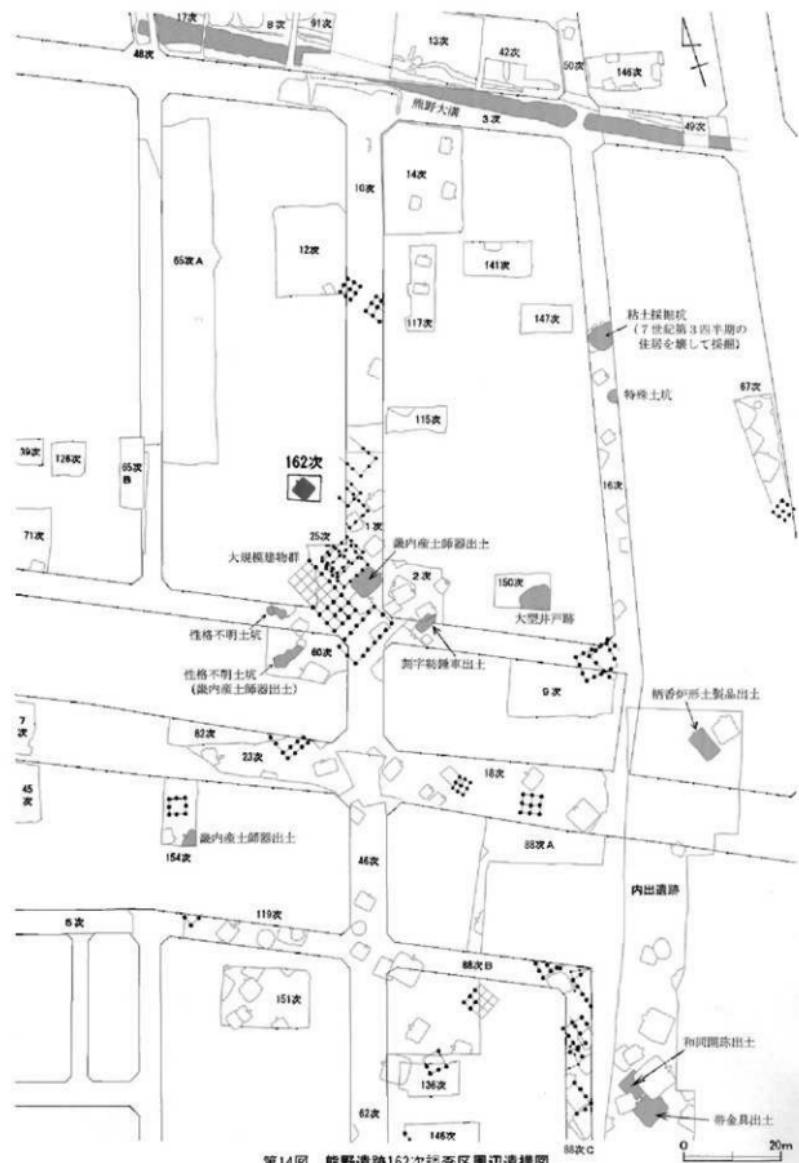
番号	形種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	焼成	断土	残存率	備考
1	环	(10.4)	4.2	2.7	-	褐橙色	普通	高得、角閃石	図示10% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り
2	环	(9.9)	4.2	2.6	-	灰赤褐色	良好	精良	図示10% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り、横歯
3	环	(10.0)	4.3	3.0	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示20% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り、磨痕有り
4	环	(10.4)	4.3	3.0	-	灰黄赤色	普通	石英、角閃石。(精良)	図示20% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り、磨痕有り
5	环	(9.8)	4.2	2.9	-	暗褐色	普通	精良	図示25% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り
6	环	(10.3)	4.3	3.3	-	橙色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示18% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り
7	环	(10.9)	3.0	-	棕褐色	普通	石英、角閃石。(精良)	図示50% 図示、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
8	环	(10.9)	4.3	3.0	-	淡茶褐色	良好	精良	図示15% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り
9	环	(10.7)	4.2	4.0	-	灰褐色	普通	精良	図示12% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り、磨痕有り
10	环	(10.8)	3.5	-	褐褐色～灰褐色	普通	石英、角閃石。チャート。微砂粒	図示30% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り、磨痕有り	
11	环	(8.1)	3.0	-	-	暗灰褐色	良好	石英、輝石	図示30% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り
12	环	11.0	3.6	-	にぶい橙色	普通	石英、角閃石	60% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
13	环	(10.6)	3.7	-	灰赤褐色	良好	精良	図示20% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
14	环	(10.0)	3.3	-	-	灰赤褐色	良好	石英、角閃石。(精良)	40% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り
15	环	10.9	4.0	-	暗棕褐色	普通	石英、雲母	50% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
16	环	(10.7)	3.4	-	灰褐色	普通	石英、角閃石。チャート。	図示12% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
17	环	10.8	3.7	-	暗棕褐色	良好	石英、輝石	75% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り、内面に鉛錫斑状付着	
18	环	(10.9)	3.9	-	棕褐色	普通	石英、角閃石、雲母	図示40% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
19	环	(10.4)	3.6	-	灰黄赤色	良好	精良	図示15% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
20	环	(11.0)	4.0	-	灰赤褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	図示10% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
21	环	11.0	3.6	-	棕褐色	良好	石英、角閃石、微砂粒	70% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り、磨痕有り	
22	环	(11.0)	3.5	-	棕褐色	良好	石英、角閃石。(精良)	図示12% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
23	环	(13.0)	4.2	-	棕色	普通	石英、角閃石、輝石、雲母、微砂粒	60% 図示、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
24	环	(11.9)	3.1	-	灰赤褐色	普通	精良	図示10% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
25	环	(12.4)	3.8	-	棕褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	50% 図示、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
26	环	(11.8)	4.2	-	淡茶褐色	良好	石英、角閃石。(精良)	図示15% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
27	环	(12.0)	3.6	-	灰褐色	良好	精良	図示10% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
28	环	(12.7)	3.8	-	灰褐色	良好	石英、角閃石。(精良)	図示20% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
29	环	14.1	4.9	-	明棕褐色	普通	石英、角閃石、雲母、微砂粒	80% 図示、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
30	环	(12.8)	4.0	-	棕色	普通	角閃石、微砂粒	図示15% 頂上、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り、磨痕有り	
31	环	(10.4)	4.0	-	棕色	普通	石英、輝石、雲母、微砂粒	99% 図示、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り、有鉛斑、底面に木炭吸着、ヘラ削りを施す	
32	环	17.3	6.2	-	棕褐色	良好	石英、角閃石、微砂粒	80% 図示、口縁部横ナデ、体部手持ちへラ削り	
33	环	(10.6)	2.3	-	褐閃～暗褐色	良好・堅脆	微砂粒	図示10% 頂上、口縁部外面及び内面彩色、口沿内側凹凸、比金型跡	
34	环	(16.2)	4.3	3.0	-	暗棕褐色	普通	石英、角閃石、チャート。	図示15% 頂上、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、有鉛斑
35	环	(16.0)	4.3	3.0	-	胡椒褐色	良好	石英、角閃石、白色粒	図示25% 頂上、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、有鉛斑
36	环	10.2	3.0	-	明棕褐色	普通	石英、角閃石	75% 図示、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、有鉛斑	
37	环	(10.6)	3.2	-	黑褐色	中欠點	石英、角閃石、白色粒	図示20% 頂上、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、有鉛斑	
38	环	(10.8)	3.3	-	褐褐色	普通	石英、角閃石、氧化鉄粒	図示40% 頂上、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、有鉛斑	
39	环	10.7	3.4	-	褐褐色	普通	石英、角閃石、微砂粒	95% 図示、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、内外面に煤付着、有鉛斑	
40	环	(11.2)	3.1	-	明棕褐色	普通	石英、角閃石、白色粒	図示20% 頂上、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、有鉛斑	
41	环	(10.8)	3.4	-	棕色	普通	石英、角閃石。パミス	図示25% 頂上、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、有鉛斑	
42	环	(10.7)	4.2	-	灰黑色	やや悪	石英、角閃石	50% 図示、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、有鉛斑	
43	环	11.2	3.6	-	暗黄褐色	やや悪	石英、角閃石、黑色粒	60% 図示、口縁部横ナデ、底部手持ちへラ削り、有鉛斑	

1号住居跡出土遺物観察表(2)

番号	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色 調	施 成	胎 土	堆存率	備 考
44	坪	(11.1)	(2.9)	-	明漆鉢	普 通	石英、角閃石	顯示12%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
45	坪	(11.8)	(2.2)	-	棕褐色	普 通	石英、角閃石、赤色粒、黃砂粒	顯示20%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
46	坪	(11.1)	(4.1)	-	棕褐色	普 通	石英、角閃石、輝石、黒砂粒	顯示40%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
47	坪	(12.0)	(3.0)	-	黄褐色	普 通	石英、角閃石	顯示12%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
48	坪	(13.7)	(3.0)	-	棕褐色	良 好	石英、角閃石、黒砂粒	顯示20%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
49	坪	(12.1)	(4.0)	-	棕 色	普 通	石英、角閃石、黒砂粒	顯示30%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
50	坪	(14.5)	3.5	-	明褐色	普 通	石英、角閃石	顯示15%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
51	坪	(15.1)	(2.2)	-	黄褐色	普 通	石英、角閃石、黒砂粒	顯示20%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
52	坪	(13.8)	(4.0)	-	棕褐色	普 通	石英、角閃石、白色粒	顯示30%	褐土。口縁部横ナラ、内外面に放射状暗文付属
53	坪	(14.7)	3.7	-	棕褐色	良 好	石英、角閃石	40%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
54	坪	(15.8)	(2.0)	-	棕褐色	普 通	石英、長石、角閃石	顯示10%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
55	坪	15.0	5.1	-	暗褐色~黑褐色	普 通	石英、角閃石	90%	显示。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文。内面に放射状暗文付属
56	坪	(15.7)	(4.0)	-	黄灰~灰褐色	不 良	石英、角閃石、黒砂粒	顯示20%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文。底部灰褐色。壁底有5%。
57	坪	(12.9)	(5.0)	-	棕褐色	良 好	石英、角閃石、黒砂粒	顯示20%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文。底部灰褐色。
58	坪	15.8	4.1	-	棕褐色	良 好	石英、角閃石、チャート、白色粒	90%	显示。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
59	坪	(15.1)	(7.3)	-	灰褐色	良 好	石英、角閃石、黒砂粒	顯示35%	显示。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。下部ヘラ削り。内面放射状暗文。底盤
60	坪	(16.0)	(5.2)	-	棕褐色	良 好	石英、角閃石、白色粒	顯示20%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。底部下部ヘラ削り。内面放射状暗文
61	皿	(17.4)	(2.0)	-	明褐色	良 好	石英、角閃石、チャート	顯示10%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り
62	皿	(18.8)	(2.2)	-	明褐色	普 通	石英、角閃石、雲母	顯示10%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り
63	皿	(17.6)	(2.2)	-	棕褐色	良 好	石英、角閃石、赤色粒	顯示15%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
64	皿	(16.7)	(2.0)	-	灰黑褐色	乍々憑	石英、角閃石、長石	顯示15%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
65	皿	(18.7)	(2.4)	-	明褐色	普 通	石英、角閃石、黒砂粒	顯示15%	褐土。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
66	皿	(20.2)	(2.0)	-	棕褐色	普 通	石英、角閃石	顯示27%	显示。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
67	皿	(21.6)	(2.0)	-	棕褐色	良 好	石英、角閃石、黒砂粒	顯示20%	显示。口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
68	皿	(22.7)	(4.0)	-	灰褐色~黑褐色	乍々憑	石英、角閃石、長石	顯示45%	昭和。P1-T-1. 口縁部横ナラ、底部手持ちへラ削り。内面放射状暗文
69	須恵器 坪	(16.2)	(2.7)	-	明灰褐色	普 通	石英、長石	顯示10%	褐土。ロクロ調整。未野
70	須恵器 坪	(19.6)	4.0	(8.0)	淡灰褐色	良 好	長石、黑色粒、黒砂粒少量	顯示40%	显示。ロクロ調整。底部へラ削り未調整。未野
71	須恵器 坪	(9.4)	2.9	(8.7)	黄灰白色	不 良	石英、墨色粒	顯示35%	昭和。ロクロ調整。底盤がかるい手持ちへラ削り。未野
72	須恵器 坪	-	(0.6)	(2.0)	明灰褐色	普 通	石英、長石、黑色粒	顯示45%	昭和。ロクロ調整。底盤がかるい手持ちへラ削り。未野
73	須恵器 坪	-	(1.1)	(7.0)	明灰褐色	普 通	石英、長石、片岩、繊維	顯示25%	昭和。ロクロ調整。底盤削除へラ削り+面取り。未野
74	須恵器 坪	(16.4)	3.2	(9.0)	明灰褐色	普 通	石英、長石、片岩。(瓶)	顯示18%	昭和。ロクロ調整。底盤手持ちへラ削り。口部内面削除。未野
75	須恵器 坪	-	(1.2)	(15.9)	灰白色	乍々憑	石英、長石、黒色粒	顯示10%	昭和。ロクロ調整。底盤削除へラ削り+面取り。底盤有り。未野
76	須恵器 盆	(16.1)	(2.3)	-	淡灰褐色	良好~堅難	精良	顯示10%	昭和。ロクロ調整。杯、碗、湖西産
77	須恵器 坪	(9.3)	(3.2)	-	淡灰褐色	良好~堅難	精良	顯示10%	昭和。ロクロ調整。底盤削除へラ削り。杯、碗、湖西産
78	須恵器 盆	(10.0)	(3.3)	-	黄灰褐色	乍々憑	石英、黑色粒	顯示20%	昭和。ロクロ調整。底盤有り。H1H、底地不明
79	須恵器 盆	(9.6)	(1.3)	-	淡灰褐色	良 好	石英、長石。(精良)	顯示18%	昭和。ロクロ調整。底盤削除へラ削り。未野
80	須恵器 盆	(10.0)	(1.4)	-	灰褐色	普通~堅難化	黒砂粒、片岩	顯示7%	昭和。ロクロ調整。未野部削除ナラ。未野
81	須恵器 盆	-	(0.8)	-	灰褐色	良 好	石英、長石	顯示40%	昭和。ロクロ調整。又舟部削除ナラ。未野
82	須恵器 盆	(10.6)	(1.6)	-	灰白色	乍々憑	石英、長石	顯示10%	昭和。ロクロ調整。又舟部削除へラ削り。未野
83	須恵器 盆	(10.6)	(1.5)	-	暗灰褐色	良好~細化端	石英、長石	顯示10%	昭和。ロクロ調整。又舟部削除へラ削り。未野
84	須恵器 盆	(10.2)	(1.9)	-	灰 色	良 好	石英、長石、黑色粒。(精良)	顯示40%	昭和。ロクロ調整。又舟部削除へラ削り。未野
85	須恵器 瓷	(10.2)	(1.6)	-	明灰褐色	普 通	石英、長石	顯示10%	昭和。ロクロ調整。天井部手持ちへラ削り。未野
86	須恵器 瓷	(12.6)	(2.2)	-	灰褐色	普通~無化端	石英、長石	顯示15%	昭和。ロクロ調整。天井部削除へラ削り。未野

1号住居出土遺物統観表(3)

番号	種類	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	色調	施成	胎土	残存率	備考
S7	須志器 盆	(10.6)	(1.6)	-	明灰色	普通	石英、長石、片岩	図示10%	覆土、ロクロ調整、天井部回転ナダ、末野
88	須志器 盆	11.5	(2.8)	-	灰 色	良 好	石英、長石、片岩。(粗い)	99%	図示、ロクロ調整、云井部回転ヘラ削り、つまみ丸味、末野
89	須志器 盆	(21.5)	(2.2)	-	明灰色	普通	石英、長石	図示35%	覆土、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、あみ有り、末野
90	須志器 盆	(22.7)	(3.2)	-	にい・黄褐色	普通	石英、長石、片岩	図示25%	図示、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、末野
91	須志器 盆	-	(3.0)	(18.1)	灰褐色	普通	石英、長石、片岩	図示10%	図示、ロクロ調整、天井部回転ヘラ削り、末野
92	須志器 盆	(24.9)	(3.8)	(22.3)	淡黃褐色	普通	石英、チャート、褐色粒	図示15%	覆土、ロクロ調整、底部回転ヘラ削り、末野
93	須志器 盆	(28.8)	(5.0)	-	明灰色	普通	石英、長石、黑色粒	図示25%	図示、ロクロ調整、外面部回転ヘラ削り、内面部波叩き後回転ナダ、末野
94	須志器 盆	-	(2.0)	(13.1)	灰褐色	普通	石英、長石	図示15%	覆土、ロクロ調整、末野
95	須志器 盆	-	(1.6)	-	暗褐色	不 良	石英、赤色粒	図示15%	覆土、ロクロ調整、外面部波叩き後回転ナダ、末野
96	須志器 盆	(5.4)	(2.4)	-	淡灰綠色	良好・艶無	石英 (精良)	図示15%	覆土、ロクロ調整、底部回転ヘラ削り、秋闇産
97	須志器 盆	-	(3.0)	-	黃褐色	不良・艶無	石英、長石、片岩、角閃石、半透明	図示90%	図示、底部無調整、解説有り、末野
98	須志器 刷毛	(14.6)	(5.9)	-	淡灰褐色	普通	石英、長石、黑色粒	図示45%	図示、ロクロ調整、内面部青面波叩き、外面部平行叩き後回転ナダ、末野
99	須志器 盆	-	-	-	灰褐色	良 好	石英、長石	破片	覆土、ロクロ調整、末野
100	須志器 盆	-	(1.9)	(11.0)	灰褐色	良 好	長石、黑色粒	図示20%	解説面、洗部手持ちヘラ削り、馬鹿足?
101	須志器 盆	-	-	-	灰白色	やや惡	石英、長石、黑色粒	破片	覆土、内面部波叩き、外面部平行叩き後ナダ、末野
102	須志器 盆	-	-	-	灰褐色	やや惡	石英、長石、片岩	破片	解説面、内面部波叩き後、外面部平行叩き後、地盤土は練り甘く大粒の砂が多い、末野
103	須志器 壺	-	-	-	暗褐色	良 好	石英、長石	破片	図示、内面部青面波叩き、外面部平行叩き、末野
104	壺	(22.4)	(9.1)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、長石、バミス、黒砂粒	図示20%	図示、口縁部横ナダ、底部ヘラ削り、内面部ナダ、口縫部内側削り
105	壺	(22.2)	(5.6)	-	褐色	普通	石英、角閃石、黒砂粒	図示20%	図示、口縫部横ナダ、底部ヘラ削り、内面部ナダ、口縫部内側削り
106	壺	(22.8)	(8.4)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、長石、微砂粒	図示25%	図示、口縫部横ナダ、底部ヘラ削り、内面部ナダ、口縫部内側削り
107	壺	(21.0)	(8.2)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、チャート、黒砂粒	図示30%	図示、口縫部横ナダ、底部ヘラ削り、内面部ナダ
108	壺	(22.4)	(6.4)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、雷鳴、黒砂粒	図示15%	図示、口縫部横ナダ、底部ヘラ削り、内面部ナダ
109	小形壺	(9.8)	(4.3)	-	灰褐色	良 好	石英、(精良)	図示10%	図示、口縫部横ナダ、底部手持ちヘラ削り、内面部ナダ
110	壺	(22.4)	(16.0)	-	明褐色	普通	石英、角閃石、チャート、長石、砂粒	図示20%	図示、口縫部横ナダ、底部ヘラ削り、内面部ナダ
111	小形壺	(11.7)	(6.0)	-	にい・赤褐色	普通	石英、角閃石、バミス、雲母	図示25%	図示、口縫部横ナダ、底部ヘラ削り、内面部ナダ
112	高 壺	-	(2.5)	-	黒褐色	普通	石英、角閃石	図示95%	覆土、脚部手持ちヘラ削り、内面部放射状焼文
113	壺	(23.2)	(16.7)	-	にい・暗褐色	普通	砂粒、バミス	図示20%	図示、口縫部横ナダ、体部ヘラ削り、内面部ナダ
114	壺	(21.2)	(13.6)	-	灰褐色	普通	石英、角閃石、バミス、砂粒	図示20%	図示、口縫部横ナダ、底部ヘラ削り、内面部ナダ
115	壺	(24.4)	(24.4)	-	暗褐色	普通	石英、長石、角閃石、バミス、雲母	図示20%	図示、口縫部横ナダ、体部ナダ、内面部ナダ、脚部崩壊
116	壺	-	(5.7)	(13.5)	灰褐色	普通	石英、角閃石、バミス	図示10%	図示、外面部ヘラ削り、内面部ナダ
117	壺	(27.0)	(12.7)	-	暗褐色	普通	石英、角閃石、バミス、砂粒	図示20%	図示、口縫部横ナダ、体部ナダ、内面部ナダ、砂粒重ね
118	壺	-	(5.6)	(12.1)	暗褐色	普通	石英、角閃石、バミス、砂粒	図示15%	覆土、体部ヘラ削り、内面部ナダ、底部面取り
119	壺	-	(7.2)	(15.6)	暗褐色~灰褐色	良 好	石英、角閃石、チャート、バミス、砂粒	図示15%	図示、体部ヘラ削り、直底面取り、内面部ナダ
120	壺	長さ 9.2cm 幅 9.2cm	幅 0.5cm	厚さ 0.5cm	重さ 5.6g	-	-	99%	図示、細い角棒状
121	土 筒	長さ 4.4cm	幅 1.4cm	厚さ 1.4cm	重さ 8.9g	根掛柵	石英、角閃石、黒砂粒	99%	覆土、調面ナダ、両端部欠損
122	瓶	長さ 2.6cm	幅 2.4cm	厚さ 1.8cm	重さ 13.0g	硝酸度	中	100%	覆土、疊形で施柵有り、跳狀か?
123	繩文壺	長さ 17.8cm	幅 5.0cm	厚さ	重さ 225.0g	硝酸溶出量	-	100%	図示、両側面に焼打による抉りがある
124	磨文壺	長さ 13.2cm	幅 12.7cm	厚さ 5.6cm	重さ 905.0g	硝酸溶出量	-	70%	解説面、砾石として使用か?
125	球形磨痕壺	長さ 5.5cm	幅 5.0cm	厚さ 2.5cm	重さ 54.5g	硝酸溶出量	-	100%	図示
126	球形磨痕壺	長さ 4.7cm	幅 4.8cm	厚さ 3.5cm	重さ 40.1g	硝酸溶出量	-	100%	図示
127	球形磨痕壺	長さ 4.7cm	幅 3.7cm	厚さ 2.7cm	重さ 23.9g	硝酸溶出量	-	100%	覆土
128	圓筒壺	長さ 7.1cm	幅 6.2cm	厚さ 3.4cm	重さ 23.8g	石質 砂岩	-	99%	覆土



第14図 熊野遺跡162次該査区周辺造構図

写 真 図 版

図版 1



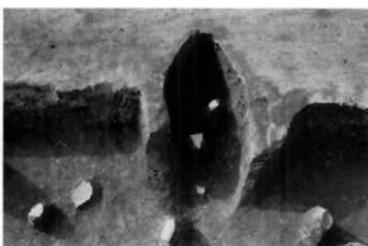
熊野162次全景



1号住居跡遺物出土状況



1号住居跡カマド



1号住居跡カマド遺物出土状況



1号住居跡No.12



1号住居跡No.15



1号住居跡No.17



1号住居跡No.21



1号住居跡No.29



1号住居跡No.31



1号住居跡No.32



1号住居跡No.36



1号住居跡No.39

図版 2



1号住居跡No.43



1号住居跡No.53



1号住居跡No.55



1号住居跡No.58



1号住居跡No.68



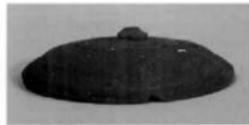
1号住居跡No.70



1号住居跡No.78



1号住居跡No.84



1号住居跡No.88



1号住居跡No.104



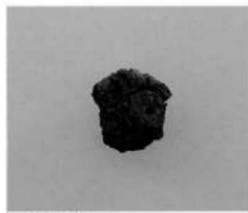
1号住居跡No.107



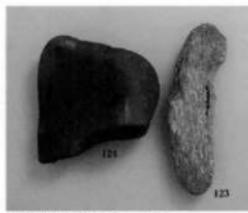
1号住居跡No.120



1号住居跡No.121



1号住居跡No.122



1号住居跡No.123・124



1号住居跡No.125～128

報告書抄録

よりがな	くまのいき								
書名	熊野遺跡図								
副書名									
シリーズ	深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書								
巻次	第84集								
編著者名	宮本直樹・竹野谷俊夫								
編集機関	深谷市教育委員会								
所在地	〒366-0823 深谷市本住町17番地3 Tel.048(572)9581								
発行日	平成19年3月15日								
所収遺跡	所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査深度	
熊野遺跡 (162次調査)	埼玉県深谷市岡 字中出2855-4他	市岡村	遺跡	11218 63-017	36°12'31"	139°14'28"	平成18年4月11日から 平成18年4月26日まで	50m ²	アパート 建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項			
集落跡 官衙跡 居館跡	奈良時代	竪穴住居跡 ピット		土師器 須恵器 鉄製品		竪穴住居跡1軒の調査であった が、7世紀後葉の良好な土器群が 出土した。			

熊野遺跡VII

2007年3月15日

編集発行 ●深谷市教育委員会
埼玉県深谷市本住町17番地3